

14時30分解禁

平成22年1月 全国百貨店売上高概況

平成22年2月18日

I. 概 況

1. 売上高総額	5,700億円余
2. 前年同月比	-5.7% (店舗数調整後/23か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	86社 271店 (平成21年12月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,632,535㎡ (前年同月比:-2.4%)
5. 総従業員数	98,340人 (前年同月比:-2.6%)
6. 3か月移動平均値	6-8月 -9.9%、7-9月 -9.7%、8-10月 -9.1%、 9-11月 -10.2%、10-12月 -8.8%、11-1月 -7.4%

[参考] 平成21年1月の売上高増減率は-9.1% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

23か月連続の前年同月比マイナスであるが、減少率は2か月連続で5%台となり、前月から横這いで推移した。また、トレンドを示す3か月移動平均値は持ち直し傾向にある。

1月は、依然として消費者の節約志向が続いているものの、エコポイントやエコカー減税などの政策効果及び昨年末の二次補正予算成立などから、景気の先行き不安が若干和らぎ、消費環境にも改善傾向が見られた。店頭では低迷を続けていた高額商材が前年並み(美術・宝飾・貴金属:-0.4%)に回復したほか、文化催事や物産展などのイベント施策が奏功し、来店客数の下げ止まりがみられる店舗も増えており、基調変化を感じさせる兆しが見えてきた。

具体的な動向としては、年始休暇が一日減少したことやクリアランスセールなどの12月への一部前倒しなどのマイナス要素がある一方、特選輸入雑貨や宝飾・高級時計など高額品の動きが戻ってきたこと、巣ごもり消費を反映して食料品や家庭用品が比較的堅調に推移したこと、複数の店舗で閉店売しセール等の特殊要因があったこと、外国人売上が3か月連続で二桁の伸び(24.8%増/調査対象41店舗)を示したこと等のプラス要素が報告されている。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「1月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇ 月前半は冬型の気圧配置が続き強い寒気が南下したため、日本海側では雪、太平洋側では晴れの日が多かった。
中旬後半は移動性高気圧に覆われ全国的に晴れ、気温も平年を上回った。下旬は数日の周期で低気圧が通過した。

(2) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 12日 (" +1日/日曜1日増)

(4) 来店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)

①増加した: 25店、②変化なし: 35店、③減少した: 76店、④不明: 49店

(5) 1月歳時記(初売り、冬的全館セール、成人の日)の売上(同上)

①増加した: 8店、②変化なし: 32店、③減少した: 89店、④不明: 56店

(6) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)

①増加する: 7店、②変化なし: 57店、③減少する: 59店、④不明: 62店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2010年01月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	570,003,243	100.0	-5.7 (-7.0)
10都市	359,241,920	63.0	-6.4 (-7.8)
札幌	14,309,462	2.5	-2.5 (-13.4)
仙台	7,754,210	1.4	-8.1
東京	135,629,385	23.8	-7.4 (-8.4)
横浜	30,786,588	5.4	-4.4
名古屋	34,438,519	6.0	-5.7
京都	23,321,520	4.1	-5.5
大阪	68,332,108	12.0	-7.7 (-10.9)
神戸	15,784,430	2.8	-4.9
広島	13,577,317	2.4	-6.4
福岡	15,308,381	2.7	-1.5
10都市以外の地区	210,761,323	37.0	-4.7 (-5.7)
北海道	3,961,612	0.7	13.9 (-5.5)
東北	11,285,533	2.0	-6.1
関東	101,750,304	17.9	-4.7
中部	17,489,615	3.1	-1.7
近畿	18,511,624	3.2	-6.3
中国	14,547,384	2.6	-6.3
四国	11,544,724	2.0	-6.9
九州	31,670,527	5.6	-5.0 (-9.4)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	570,003,243	100.0	-5.7 (-7.0)
紳士服・洋品	48,485,087	8.5	-8.4 (-9.3)
婦人服・洋品	161,214,008	28.3	-8.7 (-9.9)
子供服・洋品	17,312,117	3.0	-11.0 (-11.5)
その他衣料品	16,881,283	3.0	-4.4 (-5.5)
衣 料 品	243,892,495	42.8	-8.5 (-9.6)
身のまわり品	74,319,780	13.0	-4.3 (-6.4)
化粧品	24,869,989	4.4	-1.5 (-2.7)
美術・宝飾・貴金属	21,040,167	3.7	-0.4 (-3.2)
その他雑貨	23,726,348	4.2	-5.8 (-8.4)
雑 貨	69,636,504	12.2	-2.7 (-4.9)
家 具	6,965,916	1.2	-4.9 (-6.1)
家 電	1,510,391	0.3	-11.7 (-12.6)
その他家庭用品	17,786,393	3.1	-3.0 (-4.3)
家 庭 用 品	26,262,700	4.6	-4.1 (-5.3)
生 鮮 食 品	27,258,019	4.8	-4.0 (-4.9)
菓 子	33,204,288	5.8	-2.0 (-2.9)
惣 菜	27,902,393	4.9	-6.2 (-6.9)
その他食料品	37,746,276	6.6	-0.5 (-1.9)
食 料 品	126,110,976	22.1	-3.0 (-4.0)
食 堂 喫 茶	15,352,402	2.7	-3.8 (-5.1)
サ ー ビ ス	5,490,360	1.0	-2.0 (-3.1)
そ の 他	8,938,026	1.6	-9.6 (-10.3)
商 品 券	15,911,591	2.8	19.0 (17.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -6.4% (店舗数調整後／23か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -4.7% (〃／31か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-6.4	-4.0	23か月連続マイナス
札幌	-2.5	-0.1	17か月連続マイナス
仙台	-8.1	-0.1	21か月連続マイナス
東京	-7.4	-1.8	23か月連続マイナス
横浜	-4.4	-0.2	18か月連続マイナス
名古屋	-5.7	-0.3	26か月連続マイナス
京都	-5.5	-0.2	17か月連続マイナス
大阪	-7.7	-0.9	23か月連続マイナス
神戸	-4.9	-0.1	2か月ぶりマイナス
広島	-6.4	-0.2	23か月連続マイナス
福岡	-1.5	0.0	18か月連続マイナス
10都市以外の地区	-4.7	-1.7	31か月連続マイナス
北海道	13.9	0.1	8か月連続プラス*
東北	-6.1	-0.1	22か月連続マイナス*
関東	-4.7	-0.8	31か月連続マイナス
中部	-1.7	-0.1	22か月連続マイナス
近畿	-6.3	-0.2	22か月連続マイナス
中国	-6.3	-0.2	20か月連続マイナス*
四国	-6.9	-0.1	31か月連続マイナス
九州	-5.0	-0.3	29か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、12か月連続で全品目がマイナスとなった。身のまわり品、雑貨、家庭用品がマイナス幅を縮めたが、衣料品と食料品は先月より落とす結果となった。また、その他衣料品、化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、家具、その他食料品が先月より改善する動きとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-5.7	—	23か月連続マイナス
紳士服・洋品	-8.4	-0.7	22か月連続マイナス
婦人服・洋品	-8.7	-2.5	31か月連続マイナス
子供服・洋品	-11.0	-0.4	17か月連続マイナス
その他衣料品	-4.4	-0.1	23か月連続マイナス
衣料品	-8.5	-3.8	31か月連続マイナス
身のまわり品	-4.3	-0.6	29か月連続マイナス
化粧品	-1.5	-0.1	14か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-0.4	0.0	35か月連続マイナス*
その他雑貨	-5.8	-0.2	26か月連続マイナス*
雑貨	-2.7	-0.3	23か月連続マイナス
家具	-4.9	-0.1	26か月連続マイナス
家電	-11.7	0.0	6か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-3.0	-0.1	23か月連続マイナス
家庭用品	-4.1	-0.2	26か月連続マイナス
生鮮食品	-4.0	-0.2	12か月連続マイナス*
菓子	-2.0	-0.1	4か月連続マイナス*
惣菜	-6.2	-0.3	20か月連続マイナス*
その他食料品	-0.5	0.0	4か月連続マイナス*
食料品	-3.0	-0.6	12か月連続マイナス
食堂喫茶	-3.8	-0.1	18か月連続マイナス
サービス	-2.0	0.0	10か月連続マイナス
その他	-9.6	-0.2	5か月連続マイナス
商品券	19.0	0.4	3か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成22年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年2月18日

I. 概況

1. 売上高総額	1,356億円余
2. 前年同月比	-7.4% (店舗数調整後/23か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-5.4%(90.3%) : 非店頭-22.4%(9.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成21年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	946,658㎡ (前年同月比:-3.9%)
6. 総従業員数	20,655人 (前年同月比:+9.4%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 -11.9%、7-9月 -11.6%、8-10月 -11.4%、 9-11月 -11.9%、10-12月 -9.9%、11-1月 -8.2%

[参考] 平成21年1月の売上高増減率は-9.6% (店舗数調整後)

【1月売上の特徴】

- (1) 東京地区では17か月ぶりに美術・宝飾・貴金属の売上が前年同月比プラスとなった。都内各店でジュエリーや高級時計などを中心に富裕層消費の回復傾向が見られた。
- (2) 初商は入店客数・売上高ともにほぼ前年並みに推移した。特徴的な動きとしては、食料品・家庭用品等の実用的な福袋、旅行・食事等の体験型福袋などに人気が集まった。
- (3) 衣料品は下旬の気温上昇で、一部春物プロパー商材に動きが見られたものの、クリアランスセールの冬物衣料については逆に低調な結果となった。
- (4) 巣ごもり消費を反映して家庭用品は比較的堅調に推移した。具体的には和洋食器、調理器具などに活発な動きが見られた。
- (5) 2月14日が日曜日となり苦戦が懸念されたバレンタイン商戦であるが、都内各店から寄せられた速報ベースでは前年を少し上回る結果が出ており、中には二桁増を記録した店舗も複数ある。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 2店、②変化なし: 7店、③減少した: 11店、④不明: 2店
- (3) 1月歳時記(初売り、冬の全館セール、成人の日)の売上(同上)
 - ①増加した: 0店、②変化なし: 8店、③減少した: 11店、④不明: 3店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 0店、②変化なし: 10店、③減少する: 10店、④不明: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年01月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	135,629,385	100.0	-7.4 (-8.4)
紳士服・洋品	12,463,593	9.2	-9.5 (-10.1)
婦人服・洋品	36,013,892	26.6	-12.1 (-12.9)
子供服・洋品	2,774,697	2.0	-10.9 (-11.1)
その他衣料品	3,460,886	2.6	-3.9 (-5.2)
衣 料 品	54,713,068	40.3	-11.0 (-11.8)
身のまわり品	18,739,114	13.8	-3.7 (-5.9)
化粧品	6,082,245	4.5	-4.0 (-4.4)
美術・宝飾・貴金属	5,568,793	4.1	1.0 (-0.8)
その他雑貨	7,055,683	5.2	-5.0 (-5.4)
雑 貨	18,706,721	13.8	-2.9 (-3.7)
家 具	2,099,373	1.5	-0.8 (-2.2)
家 電	533,924	0.4	-21.6 (-21.6)
その他家庭用品	4,393,994	3.2	-8.2 (-9.2)
家 庭 用 品	7,027,291	5.2	-7.3 (-8.3)
生 鮮 食 品	4,356,304	3.2	-5.4 (-6.3)
菓 子	7,665,466	5.7	-5.2 (-6.4)
惣 菜	6,281,069	4.6	-7.1 (-8.1)
その他食料品	9,835,115	7.3	-2.2 (-3.1)
食 料 品	28,137,954	20.7	-4.7 (-5.7)
食 堂 喫 茶	3,433,205	2.5	-3.8 (-5.2)
サ ー ビ ス	2,084,469	1.5	2.9 (2.9)
そ の 他	2,787,563	2.1	-21.2 (-21.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商 品 券	5,708,516 千円	156.4 (149.5)
従 業 員 数	20,655 人	9.4
店 舗 面 積	946,658 m ²	-3.9

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、16か月連続で全品目がマイナスとなった。しかし、5品目の中で身のまわり品、雑貨、食料品が先月より改善する動きとなり、衣料品、家庭用品が落とす結果となった。また、子供服・洋品、その他衣料品、化粧品、家具、その他食料品が先月より改善した。美術・宝飾・貴金属が1.0%と17か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-7.4	-	23か月連続マイナス
紳士服・洋品	-9.5	-0.9	22か月連続マイナス
婦人服・洋品	-12.1	-3.4	18か月連続マイナス
子供服・洋品	-10.9	-0.2	17か月連続マイナス
その他衣料品	-3.9	-0.1	21か月連続マイナス
衣料品	-11.0	-4.6	18か月連続マイナス
身のまわり品	-3.7	-0.5	22か月連続マイナス
化粧品	-4.0	-0.2	14か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	1.0	0.0	17か月ぶりプラス*
その他雑貨	-5.0	-0.3	20か月連続マイナス*
雑貨	-2.9	-0.4	21か月連続マイナス
家具	-0.8	0.0	22か月連続マイナス
家電	-21.6	-0.1	6か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-8.2	-0.3	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-7.3	-0.4	20か月連続マイナス
生鮮食品	-5.4	-0.2	7か月連続マイナス*
菓子	-5.2	-0.3	12か月連続マイナス*
惣菜	-7.1	-0.3	22か月連続マイナス*
その他食料品	-2.2	-0.2	4か月連続マイナス*
食料品	-4.7	-0.9	16か月連続マイナス
食堂喫茶	-3.8	-0.1	15か月連続マイナス
サービス	2.9	0.0	15か月連続プラス
その他	-21.2	-0.5	2か月ぶりマイナス
商品券	156.4	2.4	6か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>